

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第7回 「那須平成の森のインタープリテーション」

今回と次回では、那須平成の森で行っているさまざまなプログラムの基盤となる「環境教育」の考え方や「インタープリテーション」について紹介します。

「インタープリテーション」という英単語を直訳すると「通訳」という意味になりますが、自然公園や博物館などでは、自然科学等の専門的な事柄を、訪れる人に分かりやすく伝えるサービスマン手法のことをいいます。同時に教育的な側面を持ったコミュニケーションの手法でもあります。

この手法は、日本のビジターセンターでは1980年代以降に始まり、現在では、都市公園や都市型環境学習施設などさまざまな分野に広がっています。そして、この解説活動をする人のことを「インタープリター」といいます。

那須平成の森では、開設当初から「インタープリテーション計画」を立てていますが、公共施設でこのような計画を運用しているところは極めて少ないのが現状です。

那須平成の森では、この計画の

中で次のようにインタープリテーションの目的を定義しています。



ガイドウォークではインタープリテーション計画に基づいて作成したユニット資料を使って解説します。

①生物多様性の保全を理解する教育を行う。

②森の保全や自然環境調査の重要性、国立公園などの施策について理解を促す。

③質の高いインタープリテーションや人材育成を行い、自然ふれあい施設の向上に寄与する。

④自然環境保全のための自発的、主体的な行動を促し、持続可



湿地とその多様性について解説する様子

能な社会の実現に貢献する。

これらの目的を叶えるために、さまざまな来園者を想定し、対象にあったインタープリテーションの手段、プログラムの種類、実施方法について細かく計画を立てています。また、パンフレットなどの印刷物のデザインにもこれらの定義を反映させるよう務めています。

那須平成の森フィールドセンター
インタープリター 若林千賀子

かつこう

お正月に、家族の幸せを願って行うことはたくさんありますが、お正月遊びもその一つです。

▼もともと中国で古いや戦いに使われていた「凧」は、平安時代頃に日本に伝わり、江戸時代には男の子の誕生を祝って凧あげをするようになりました。その後庶民の遊びとして広まり、お正月の風物詩に。凧が高く上

こんにちは

赤ちゃん



令和元年12月24日生

こはく
千葉瑚白ちゃん (下川)

父 直彦さん
母 亜紀さん



瑚白ちゃんは…
いつもニコニコ！お姉ちゃんと遊ぶのが大好きです！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 (12月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

●世帯数 10,404世帯 (-6)
●人口 24,745人 (-39)
男 12,313人 (-20)
女 12,432人 (-19)

出生 4人 (-2)
死亡 26人 (-4)
転入 55人 (-15)
転出 71人 (3)
その他 1人

がるほど神様に近づくので、願い事が叶い元気に育つといわれています。▼「こま」は奈良時代に朝鮮半島の高麗(こうらい・こま)から伝わったため「こま」と呼ばれ、「独楽」という字があてられました。こままわしは、「物事や人生が円満にまわる」「子どもが早く独立できる」ことを願ったものです。▼「羽根つき」は室町時代に中国から伝わり、邪気を祓うために行われていました。一

年の厄をたくさん払いのけるため、相手を打ち負かすのではなく、長く続けた方が良いそうです。打ち損じたときに顔に墨を塗るのは魔除けのおまじないだといわれています。▼お正月遊びは、家に閉じこもりがちなたまごを動かす良い機会です。思い切り正月遊びを楽しみましょう。そして心も体もリフレッシュした後、家族と、新たな一年の抱負や希望を語りあえる時間を過ごしたいものです。